

令和5年度 大分県

「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」について



特別支援学校出前講座(絵手紙体験)



香々地青少年の家ワンデイキャンプ(所内自然散策)

大分県教育庁社会教育課

生涯を通じた障がい者の学び支援事業 ～共に生き、学ぶ社会の実現に向けた生涯学習支援に関する実践研究～

「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」(国庫委託10/10)

障がい者を巡る現状と課題

- 生涯学習に関するニーズや実態(学習団体や活動者数、活動内容等)を把握できていない。
- 卒業後、自立や社会参加、健康維持のための体育的・文化的・芸術的な学びを継続して行える場やプログラムが少ない。
- 障がい者が自ら生涯学習に関する情報を得ることが難しい(したいことがあっても窓口が見つけづらい)。
- 障がい者の生涯学習に関する県民の理解や協力への意識付けが十分でない。

～共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援～

具体的取組

I【推進協議会(コンソーシアム)の実施】(年4回) 505千円

(内容) 関係機関のネットワーク化(情報や課題を共有し、取組について協議)

(構成) 県教委、県障害福祉課、特別支援学校、大分大学、市教委、県社会福祉協議会、社会福祉法人、企業、障がい者支援団体、生涯学習関係団体

II【調査研究】 573千円

- 先進地の視察(宮崎県、和歌山県等)により得た成果を取組に還元
- 【新】県内の実践例や研究結果についてまとめた事例集を作成

III【実践研究】 3,779千円

- 大分大学による、知的障がい者を対象とした生涯学習講座の拡充(年10回) 公開講座(例)「歩きやすいまち調査」「スポーツ講座(ダンス等)」(R4実績より)
- 社会教育関連施設における学習の場や学習プログラム、居場所の提供
 - ・県立青少年の家での体験活動(自然散策、創作活動)
 - ・モデル公民館(3館)での講座(スポーツ、調理実習、スマホ教室、ドローン体験など)
- 特別支援学校での生徒・保護者に対する生涯学習についての啓発と「卒業後の学び」への誘導



卓球パレ-

IV【普及啓発】 3,064千円

- 講座を企画・運営する公民館・市町村職員向けの実践的な研修を実施
- 【新】ボランティア・支援者養成講座を実施
- 「県内コンファレンス(実践交流会)」を開催し、情報共有と成果普及
- 障がい者の生涯学習に関する情報発信…「かたろうえ大分」(専用ページ)の充実、リーフレット改訂
- 【新】障がい者のニーズに基づいた教材(動画コンテンツ等)の開発

効果

- 障がい者の生涯にわたる学びの場の拡大・充実
- 障がい者の喜びや生きがいの創出と健康的な生活を営むために必要な力の維持・伸長
- 障がい者の学びを支援する人材の育成とシステムの構築

予算:7,921千円

【大分県の障がい者の状況】

- 障がい者数(93,702人)
 - 身体障がい者60,859人 知的障がい者10,897人
 - 精神障がい者11,313人 難病患者 10,651人
- (R3「県障がい福祉計画」(県障がい児福祉計画)より)
- 支援学校卒業予定者 198人(R4年度)
 - ※毎年約200名が卒業
- 県障がい者スポーツ協会所属団体数 24
 - 大分市14 別府市5 宇佐2 日出1 臼杵1 日田1 (協会HPより)

【根拠法令等】

- 障害者権利条約(H26年)
 - 障害のある人が成人教育及び生涯学習において良質な教育を受けられる公平な機会を与えられる(第24条 教育)
- 障害者差別解消法(H28年)
 - 全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資する(第1条)

【重点:1年目】R4

- ①コンソーシアム体制整備
- ②調査研究 ③HP開設
- ④実践研究の実施

【重点:2年目】R5

- ①県下への普及(研修・HPの拡充)
- ②社会教育施設での講座拡充

【重点:3年目】R6

- ①大学の公開講座の定着
- ②生涯学習に関する情報一元化 → 学びへのアクセスを保障
- ③障害の有無に関わらず地域住民が共に学べる講座数増大
- ④持続的な取組体制の構築(知識・ノウハウの蓄積 → 市町村への助言・支援)

— 昨年8月頃



来年から「障がいがある方の学び支援」をはじめから、担当よろしくね♪

文科省の「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」を受託しよう！

※イメージです

え？私が！！??

特別支援教育の教員免許も勤務経験もない

A型就労支援施設？B型？放課後デー？
福祉の制度が全くわからない

障がいの種類？身体と知的だけじゃないの？
発達障がい？自閉症？精神障がい？要支援？

国への委託申請手続き？……謎すぎる…
何すればいいの？



※イメージです

他県の事例等をもとに、なんとかR4年度の事業案、予算案を作成
障害者社会参加推進室、特別支援教育課に協力依頼。いろんな団体に依頼しまくる。そして予算折衝。



財政担当者

障がいとひとくちにいても、**種類や程度**は様々。誰を対象とするの？

身体障がいがある方は、余暇活動も比較的できているようです。**知的障がいがある方**、はじめは**程度が軽く、コミュニケーション**が取れる方を対象にします。



障がいがある方の余暇活動支援をなんで社会教育課がするの？
福祉の業務じゃないの？

学校卒業後の「学び」の必要性を文科省が打ち出しました
（「障害者学習支援推進室」を新設）。社会教育施設や高等教育機関（大学等）で講座を実施します。



「共生社会」「インクルーシブ」を目指すのに、なぜ障がいがある方もない方も一緒に学ばないの？

将来的には誰もが一緒に学べるのが理想。しかし実態として「誰でも参加出来る」はずの講座にも障がいがある方の参加はない。**まず障がいがある方向けの講座等を展開**して、施設職員が対応スキルや経験を身につける必要がある。



I コンソーシアム(協議会) 委員名簿(R5)

No	業態別	所属	職名	氏名
1	学 校	国立大学法人大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター	教授	岡田 正彦
2		国立大学法人大分大学教育学部	教授	衛藤 裕司
3		大分県立大分支援学校	校長	清末 直樹
4		大分大学教育学部附属特別支援学校	校長	友成 洋
5	社会福祉関係団 体	社会福祉法人大分県社会福祉協議会 あすぴあおおいた	所長	加藤 寿代
6		大分県障害者社会参加推進センター	事務局長	高窪 修
7		社会福祉法人太陽の家 大分広域本部 健康支援課	課長	池部 純政
8		宇佐市自立支援協議会	会長	石川 博一
9	芸術文化・ スポーツ団体	おおいた障がい者芸術文化支援センター	センター長	横山 勝也
10		大分県障がい者スポーツ協会	事務局次長	新 泰徳
11		ヨカたの(大分県立新生支援学校)	代表	松尾 卓也
12		レッツダンスでガッツ元気の会(大分大学名誉教授)	主宰	麻生 和江
13	当事者団体	公益社団法人大分県手をつなぐ育成会	会員	藤近さと子
14		NPO法人自立支援センターおおいた	相談支援専門員	五反田法行
15		公益社団法人大分県精神保健福祉会	会長	神田 弘法
16	企業関係者	ソニー・太陽株式会社 人事総務部広報・CSR室	室長	佐藤 祐親
17	行政関係者	大分市教育委員会社会教育課	指導主事	工藤 幸子
18		豊後大野市教育委員会社会教育課	課長補佐兼 社会教育係長	神田 充
19		大分県福祉保健部障害者社会参加推進室 地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班	主幹(総括)	新 泰徳
20		大分県教育庁特別支援教育課指導班	指導主事兼課長 補佐(総括)	岡本 崇
21		大分県教育庁社会教育課	課長	森山 貴仁

I コンソーシアム(協議会)

第1回地域連携コンソーシアム会議(R5/6/23)

- <テーマ> (1) 令和4年度の事業成果報告および令和5年度の事業展開案について
(2) 県内の障がい者の生涯学習に関する現状について(各コンソーシアム委員より)

第2回地域連携コンソーシアム会議(R5/11/24) 医療法人謙誠会 博愛病院・博愛診療所(大分市)で実施

★施設を利用している方々へのインタビュー、協議

- ①余暇活動の実態とニーズについて
- ②講座等実施上の要望について

<協議を通して得た“気づき”“今後の取組へのヒント”>

◎「余暇の過ごし方につながる経験が少ないのでは?」

→学校教育の段階において「生涯学習や余暇活動につながる経験の保障」や「教職員・保護者・支援者に生涯学習の意義を丁寧に説明し、理解・協力を得ること」が必要かつ有効

◎「移動手段がない(獲得していない・支援がない)のでは?」

→単に講座など活動の場を準備すれば解決するものではない
障がい福祉との連携(移動支援等)

◎「新たに取り組んでみよう」と情報を入手する方法や、やってみようという意欲を掻き立てる方法がない

→専用HP「かたろうえ大分」の周知だけでなく、「検索してみる」「探してみる」機会づくり
体験会・イベントの実施や活動団体との連携、周知

→議事録はHP「かたろうえ大分」に掲載

(会議後、就労施設見学およびゲニー工房(就労継続支援B型)で昼食)

「障がい者が働いている場所に実際に伺い、余暇をどう過ごしているのか、働く上での困りごとなどをリサーチするのも今後の活動の参考になるかも」 byコンソーシアム委員



博愛病院HPより

Ⅱ 調査研究

【視察① 和歌山県紀の川市】 ①打田生涯学習センター ②麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センター

①打田地区公民館講座 6月20日(火)13:30~15:00

参加者数:障がいがある方 11名 講師 1名(名倉くみ子氏) スタッフ 6名

【講座タイトル】大きな筆で文字を書こう! みんなで楽しくチャレンジ



紙に青で思い思いに着色する。各自で好きな字を練習した後、清書。乾かしたら、記念撮影。

◎民間の取組(ゆめ・やりたいこと実現センター)が行政を動かし、公民館での講座がスタート

◎講座の内容...自由度が高い
すすめかた...あまり手出しはしない
各自のペースに合わせる
工夫...効果的な声かけ「すごい!」「めっちゃいいやん」

②麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センター 夕刻のたまりば やりたいこと講座



思い思いに過ごす。



講座に参加するしないも自由

◎夕刻のたまりば(毎週水曜日、15~19時)

平均13名が思い思いに過ごす。話したり、食べたり、...

◎やりたいこと講座 興味のあることについて、講師を招き実施

2018~2021年の4年間で153講座、2,462名

◎「週に1度の楽しみの場」「頼りにされる 居ていいのだと安心できる」

「仕事が大変でも、ここに来れるから頑張ろうと思える」

◎<仲間・時間・空間>のサンマ(3つの間)を大切にしている。

【視察② 神戸大学】近畿ブロック「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」 令和5年10月7日(土)



KUPIの学生が受付を担当



参加者が交流しやすい会場

※KUPI...神戸大学 知的障がいがある青年のための講座

◎障がいがある方の参加・関わりが多い
(受付・発表者・質問など)

◎学びにとって大切なこと(神戸大学 津田教授のまとめより)

・「自分が受け入れられている」と実感できる場づくり

・夢中になってとりくめることがある場づくり

・生きる力になる活動

・できることを無理せず、他者と協働しながら取り組む活動

Ⅲ実践研究 大学や社会教育施設でのプログラム開発

①大分大学 生涯学習講座

令和5年度講座(全5回)

第1回「アート・ワークショップ①②」

第2回「ボッチャ体験①②」

第3回「アート・ワークショップ③④」

第4回「あすぴあフェスタのブースを体験してみよう」

第5回「まち歩き調査をしてみよう」

受講者 延べ31名、学生ボランティア延べ26名、
講師 5名 メンター 3名

＜受講者の感想＞(アンケートより抜粋)

★一番おもしろかったことは、なんですか？

- ・まちあるきちょうさのぜんぶ
- ・あすぴあフェスタで身体を動かしたこと。
- ・あすぴあフェスタでドローンサッカーやeスポーツが出来たのが楽しかったです。
- ・パラ・スポーツたいけん
- ・まちあるきでみんなとワイワイして楽しめた

★次は、どのような事を学びたいですか？

- ・大分以外でもまち歩きをしたい。ボーリング、フライングディスクなどゲームをしたい。
- ・大分市いがいでまちあるきが出来るといい。
- ・サッカー
- ・心理学とか観光について学びたいです



集中してアート制作に取り組みました



ボッチャで大盛り上がり



休憩時には学生ボランティアと交流



クイズで「好きなアニメ」をあててガッツポーズ



ドローンサッカー初体験！

【成果と課題】

- ◎大学ならではの教育リソースを提供
(場・講師・学生ボランティア)
- ◎プログラムの工夫
(パラスポーツ体験、あすぴあとの連携、
学外実習(まち歩き))
- ◎1回ずつ受講者・ボランティアを募集
→○参加者の広がり
△参加者同士の交流が生まれづらい

②県立香々地・九重青少年の家ワンデイキャンプ

【かかちワンデイキャンプ】事業所ごとに実施パターン

- ①R5/9/22 豊後高田市 みづほ園(就労者39名、職員11名)
- ②R5/10/26 中津市 ややま園(就労者16名、職員3名)
- ③R5/11/9 中津市 ややま園(就労者28名、職員10名)
- ④R5/11/14 中津市 ややま園(就労者29名、職員9名)
- ⑤R5/11/21 宇佐市 ドルフィン(就労者25名、職員10名)
- ⑥R5/12/2 豊後高田市 ひまわり園(就労者22名、職員8名) 計 就労者159名、職員51名

【このえワンデイキャンプ】日田市・玖珠町・九重町の複数の事業所から参加希望を募るパターン

- ①R5/11/11 (参加者12名)
- ②R5/12/2 (参加者27名) 計 39名

<プログラム(一例)>

時 間	内 容
10:50~12:00	所内散策 または 創作活動(写真立てづくり)
12:00~13:00	昼食
13:00~14:00	プラネタリウム、ペタンク



自分で集めた素材
を使って創作



<成果(昨年度の反省を生かして改善したところ)>

- ◎プログラムを選択制にして、利用者が取り組みたい活動の実施
- ◎十分な時間を確保(移動時間、休憩時間)、動線の工夫
- ◎成果物を持ち帰っていただいた(マイスプーン、写真立て等)
- ◎施設職員の対応力の向上

<課題>

- △ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点での施設見直し
- △下見や施設職員との打合せ時間の確保



青い空、青い海
でリフレッシュ

③モデル公民館

(1) 豊後大野市千歳公民館「ひょうたんカレッジ」(全7回)

- ①障がい理解講座 ②レクスポーツ体験(ディスコン、モルック) ③ユーチューバーの学び
- ④カフェ(ピザづくり、おいしいコーヒーのいれ方)⑤五感の学び(太鼓、ダンス)
- ⑥たのしい工作(ひょうたんランプ)⑦みだしなみの学び(お化粧品/スキンケア)



【成果と課題】

- ◎モデル事業2年目に入り、落ち着いた講座運営ができています。
- ◎ボランティアの方々が参加者と「一緒に楽しみ、学ぶ」姿勢で活動している。
- ◎講座の内容は、昨年度の受講者アンケートから企画。ニーズに答えている。
- ◎先進的な内容(モルック、ユーチューバーになろう!等)を取り入れているため、準備に
労力がかかるが、地域人材を発掘し、協力してもらう体制を構築することで解決。
- △休日開催の要望があるが、スタッフを充実させるには平日開催
- △移動手段について、困っている方をどのように支援するか



(2) 由布市庄内公民館「ゆふぽきらきら教室」(全4回)

- 今年度新規実施。①ボッチャ、風船バレー②読み聞かせ、工作(クリスマスツリー)③映画鑑賞
④おやつづくり

(3) 中津市生涯学習センター まなびん館 料理教室(全3回)

- ◎今年度新規実施。R6/2/11、2/18、3/3 料理教室を実施予定。
- ◎2/11・・・炊飯器で作るチキンライス、ケーキとハンバーグ
- 2/18・・・炊飯器でつくるカレーライス、お好み焼き ※調理中は保護者は別室で懇談

IV 普及啓発

【研修】

①大分県公民館テーマ別研修会 (R5/7/14)

テーマ: 共生社会の実現に向けて公民館ができること

- ◎ 県外事例発表 「一緒に学ぼう、遊ぼう、みんなの『学び舎』で！」
千葉県我孫子市 学び舎コホミン (我孫子市湖北地区公民館)
- ◎ シンポジウム「共生社会の実現に向けた公民館の取組(現状と課題)」

②社会教育施設(公民館等)講座支援者研修(由布市)

- ◎ 講義「障がいの有無にかかわらず誰もが楽しく活動に参加するには」
講師 大分大学教職大学院 准教授 高橋 徹弥 氏
- ◎ ワークショップ「講座を実際に企画してみよう」

【広報】

障がい者の生涯学習専用WEBサイト「[かたろうえ大分](#)」改修
→ユニバーサル機能(読み上げ、ふりがな)、問合せ機能追加

【啓発】

- ・特別支援学校高等部生徒および保護者対象の出前講座
「卒業後にやりたいことを考えてみよう！」を実施(5校)ワークショップ+体験講座



フットサル体験講座



絵手紙講座

【成果と課題】

- ◎ 生徒だけでなく、教職員・保護者の方に「卒業後の学び」や「余暇活動」の必要性、県や市町村の取組を知ってもらえた。
- ◎ 市町村や障がい福祉関係機関・団体との連携の拡大
→ 中津市福祉支援課、宇佐市自立支援協議会、
ソーシャルフットボール協会、ドローンサッカー協会等
- △ 地域的な偏りがある(県西部、県南部は未実施)
- △ 継続的に実施するしくみづくり

- ・動画教材開発(料理講座、写真の撮り方講座)→3月中に「かたろうえ大分」にアップ予定
- ・九州・沖縄ブロックコンファレンス(1/21 コンパルホール)



「かたろうえ大分」トップページ

- ・身振りを交えたり絵や写真なども用いたコミュニケーションを。
- ・利用者の意思・気持ちを確認しながら、年齢に応じたふさわしい対応を。
- ・読み上げて伝える、メモを取って渡すのも効果的(視覚or聴覚優位)。

↓
「相手を理解して、対応しよう」
と思う気持ち→合理的配慮

かたろうえ大分 検索



成果と課題

<成果>

- ◎直接、当事者や支援者の方々から現状や要望を聞く機会を設定
- ◎市町村の障がい福祉関係課、社会福祉協議会、自立支援協議会等との連携拡大
- ◎社会教育関係施設(公民館、青少年の家)での講座数の拡大・受講者数の増加
- ◎特別支援学校出前講座の拡大(R4:3校→R5:5校)
- ◎動画教材の作成

<課題>

- △全県的な取組の広がりには至っていない(県西部、南部)
- △受講料や交通費の問題をどうするか(受益者負担が原則だが…)
- △「かたろうえ大分」の周知拡大、情報収集が必要
- △学校教育から生涯学習への「接続」「移行」をスムーズにするために特別支援学校出前講座を拡大したいが、支援学校も行事等が多く、難しい
- △ボランティア、支援者の確保と養成のシステム構築に至っていない(人材バンク的なもの)
- △持続可能な取り組みにするために、委託期間終了後どのように自走するか(予算、事業内容)を考える必要

生涯を通じた障がい者の学び支援事業 ～共に生き、学ぶ社会の実現に向けた生涯学習支援に関する実践研究～

「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」(国庫委託10/10)

これまでの
取組による
成果と課題

- 地域連携コンソーシアム会議の実施:社会教育・特別支援教育・障がい福祉関係者の連携体制の構築
- 実態・ニーズ調査及び大学や社会教育関連施設(公民館等)、特別支援学校における講座の実施
- 専用情報サイト「かたろうえ大分」開設:障がい者の学びに関するイベントや活動団体情報の集約・発信
- 県内への普及に向けた広報の工夫が必要
- 障がい者が参加しやすい学びや体験の機会は地域によって偏りがある

【大分県の障がい者の状況】

- 障がい者数(93,702人)
(R3「県障がい福祉計画」「県障がい児福祉計画」より)
- 支援学校卒業予定者 181人(R5年度)
※毎年約200名が卒業

【根拠法令等】

- 障害者権利条約(H26年)
障害のある人が成人教育及び生涯学習において良質な教育を受けられる公平な機会を与えられる(第24条教育)
- 障害者差別解消法(H28年)
全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資する(第1条)

～共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援～

I【推進協議会(コンソーシアム)の実施】(年3回)

- (内容) 関係機関のネットワーク化(情報や課題を共有し、取組について協議)
- (構成) 県教委、県障害福祉課、特別支援学校、大分大学、市教委、県社会福祉協議会、社会福祉法人、企業、障がい者支援団体、生涯学習関係団体

II【調査研究】

- 先進地の視察(千葉県、兵庫県等)により得た成果を取組に還元
- 【新】3年間の研究結果についてまとめた報告書を作成



公民館講座

大分大学講座

III【実践研究】

- 大分大学による、知的障がい者を対象とした生涯学習講座の拡充(年10回程度)
公開講座(例)「アートワークショップ」「パラスポーツ」(R5実績より)
- 社会教育関連施設における学習の場や学習プログラム、居場所の提供
 - ・県立青少年の家での一般利用に向けた体験活動(自然散策、創作活動)
 - ・公民館等での講座(スポーツ、調理実習、スマホ教室など)
- 特別支援学校出前講座(生徒・保護者を対象にした「卒業後の学び」紹介・体験)
- 【新】NPO団体等、民間との連携協働による市町村社会教育施設での講座実施



ロボット相撲

IV【普及啓発】

- 【新】障害平等研修(DET=Disability Equality Training)の実施による支援者の資質向上
- 【新】恒常的な活動や交流を行う「学びの拠点」の設置
- 自宅学習のニーズに応じた動画教材作成・配信
- 「県内コンファレンス(実践交流会)」開催
- 情報発信…「かたろうえ大分」(専用ページ)の充実



学びの拠点イメージ

HP

【重点:1年目】R4

- ①コンソーシアム体制整備
- ②調査研究 ③HP開設
- ④実践研究の実施

【重点:2年目】R5

- ①県下への普及(研修・HPの拡充)
- ②社会教育施設での講座拡充

【重点:3年目】R6

- ①関係者の連携体制の確立
- ②学校教育から社会教育への円滑な接続、保護者への普及啓発
- ③学びの拠点構築、県内全域での講座等の実施
- ④情報の一元化、アクセシビリティの保障

具体的
取組

効果

- 障がい者の学びを支援する人材の育成
- 障がいの有無に関わらず地域で共に学べる場や機会の拡大
- 持続可能な学びの体制の構築